



公益財団法人 日本体育協会公認
茨城県スポーツ指導者協議会

会報

第 70 号

平成27年3月15日

発行人
茨城県スポーツ指導者協議会
会 長 照 沼 一 美
事務局 〒306-0204
古河市下大野1463-4
事務局長 鈴 木 義 夫
TEL 0280-92-4555
会員数 1,148名 (H27.3.1現在)



全県研修会 (平成 26 年 8 月 3 日(日) 水戸市・茨城県農村研修館)

公益財団法人 日本体育協会公認
スポーツ指導者のために

資質向上と
活動の推進を

連帯感を深め
組織的活動を

目 次

会長あいさつ.....	2
事務局長の活動報告.....	2
平成 26 年度全国公認スポーツ指導者研修会報告	
受賞者あいさつ.....	4～6
支部だより.....	6～8
みんなの広場.....	9～12

いあいおひ



茨城県スポーツ指導者協議会会長 照沼 一美

茨城県スポーツ指導者協議会会員の皆様、ご機嫌如何お過ごしでしょうか。平成二十七年を迎えるにあたり、新しき年が我々スポーツ指導者として、より良い年になりますよう、願いを込め茨城県スポーツ指導者協議会会員の皆様に、ご挨拶を申し上げます。

平成二十六年度事業も予定通り滞りなく、すべての事業が終了いたしました。これひとえに役員の皆様の献身的なご協力と、会員の皆様のご協力によるものと感謝の意を表し御礼を申し上げます。

本協議会の主事業である登録更新時の義務研修である全県研修会においては、水戸支部主管として盛大に実施いたしました。更に支部単位の更新時義務研修会は県北支部、県南支部、そして中央支部がそれぞれに実施いたしました。それぞれに支部の特徴を出し、役員の皆様のお力が全面に出されて、参加者のニーズに応えることが出来たことと確信いたしております。平成二十六年度の養成講習会は各競技団体が行う独自事業として

山岳、バドミントン、グラウンドホッケー等が実施されました。新しい仲間の方々が受講され指導者として誕生いたしました。新公認資格者として指導力を有意義に成長させてほしいものです。新公認資格者の皆さんの一人でも多くの方が本協議会へ御入会されるよう望まれます。どうぞ、積極的な御入会をお待ちしております。

毎年の恒例行事になりました、公益法人日本体育協会公認スポーツ指導者の表彰式典が、去る平成二十六年十二月十三日 東京都港区高輪のTKPガーデンセンター品川ボールルームにおいて、公認指導者の全国研修会に先立ち開催されました。本県からの受賞者は以下の通りです。

- ▽県スポーツ指導者協議会推薦者
 - 藤田 文子様・ソフトボール
 - 古杉 進様・バレーボール
 - 江川 恵子様・バドミントン
 - 君和田治也様・ラゲビーフトボール

▽各競技団体推薦者
橋本 恵右様・水泳
菅谷 俊雄様・柔道
沼尻 満男様・テニス、スポーツプログラマー
計七名の皆様が受賞されました。誠にめでとうございます。今後更なるご健勝とご活躍をさねますようご期待申し上げます。

式典後の研修会は特別講演としてJ.S.パートナー株式会社代表取締役の福島文次郎様による「ディズニーに学ぶ人材育成法」と題して、また講演は「指導者と選手の絆を深めるには」と題してトライアスロンナショナルコーチの飯島健二郎様により行われました。

表彰式典の前日、十二月十二日渋谷シダックスホールにおいて平成二十六年全国スポーツ指導者連絡会議が都道府県代表者・中央競技団体及び協力団体選出代表委員により連絡会議が開催されました。主な内容は
* 日本体育協会指導者育成事業の現状について

◎講演は「女性特有の課題に対応したプレーヤー支援プログラムについて」をスポーツドクターの能勢さやか様（国立スポーツ科学センター）により行われました。また、十二日当日の午前中には関東一都七県による関東各都県代表者会議を開催し、
* 「スポーツ界における暴力根絶宣言後の各都県のその後の対応と公認スポーツ指導者処分基準の制定等について」と題して各都県の現状のヒヤリングを行い、この結果を日本体育協会へ報告し、関東一都七県による今後の情報の共有化を約束しました。

茨城県スポーツ指導者協議会といたしましても県体育協会の指導の下、義務研修会を中心に、機会ある毎に「スポーツ界における暴力根絶」を訴えてまいります。平成二十七年が有資格者それぞれの皆様にとつて、益々活躍されますよう、ご祈念申し上げます。終わりにご愛読いただいております。茨城県スポーツ指導者協議会会員各位の益々のご活躍を、更に茨城県スポーツ指導者協議会への格別なる、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。

平成二十六年 本協議会活動報告



茨城県スポーツ指導者協議会事務局長 鈴木 義夫

平成二十六年度茨城県スポーツ指導者協議会の事業活動をご報告申し上げます。

今年度の本協議会総会は、平成二十六年五月十一日（日）に水戸市・内原中央公民館で開催いたしました。茨城県スポーツ指導者協議会会長より総会席上に於いて、功労賞に本協議会事務局長推薦で野内康二様、県北支部長推薦で江川恵子様・平松光子様、水戸支部長推薦

で古杉進様、鹿行支部長推薦で君和田治也様・高野照代様、県西支部長推薦で近藤康雄様、感謝状に水戸支部長推薦で舛井幸子様の八名が表彰されました。

続いて平成二十五年度事業報告及び収支決算報告並びに平成二十六年事業計画案及び収支予算案を全会一致でご承認が得られました。

本協議会の主なる事業は、研修会「全県研修会・地区研修会」を茨城県内で毎年三ヶ所会場に於いて開催し、今年度の全県研修会「旧・中央研修会」を、水戸支部と研修委員会が共同で主管して、平成二十六年八月三日(日)に水戸市・茨城県農村研修館で開催して参加申込者は二百三名に対し、受講者は百八十五名「会員百二十七名・未会員五十八名」の参加がありました。

更に県南地区研修会は県南支部主管で、平成二十六年十一月十六日(日)に阿見町・本郷ふれあいセンターで開催して、参加申込者は百五十八名に対し、受講者は百二十二名「会員六十九名・未会員五十三名」の参加がありました。

また県北地区研修会は県北支部主管で、平成二十七年二月八日(日)に日立市・女性センター「らぼーるひたち」で開催して、参加申込者は九十六名に対し、受講者は八十六名「会員五十八名・未会員二十八名」の参加がありました。

次に本協議会は会報を毎年二回「七月末及び三月末」に広報委員会主管になって、研修会取材、原稿依頼、校正等など編集後に印刷製本が出来上がり次第に会員皆様へ、会報を本協議会事務局を通じて、それぞれの各支部から発行しております。

また本協議会の各支部がそれぞれに独自で研修会・講習会等を開催し、支部便りなどを発行して地域スポーツ行事等の運営に協力しております。

平成二十六年全国スポーツ指導者連絡会議全体会は、公益財団法人日本体育協会主催で平成二十六年十二月十二日(金)に東京都・シダックスビルで開催し、本協議会から、照沼会長・吉田副会長、県体協から大島副主査の三名が出席しました。

更に平成二十六年全国スポーツ指導者研修会は、公益財団法人日本体育協会主催で、平成二十六年十二月十三日(土)に東京都・TKPガーデンシティ品川で開催し本協議会から照沼会長・梅村理事・佐藤マツ様・小貫泰通様の四名が参加しました。

平成二十六年度公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者等の表彰事業に公益財団法人茨城県体育協会へ本協議会から推薦申請して、県北支部から藤田文字様・江

川恵子様、水戸支部から古杉進様、鹿行支部から君和田治也様の四名、更に競技団体よりテニスから沼尻満男様、水泳から橋本恵石様、柔道から菅谷俊雄様、ドクターから下条仁士様の四名が公益財団法人日本体育協会会長より受賞しました。

茨城県に所属する公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者は、平成二十六年十月一日現在に公認スポーツ指導者(有資格者)の登録人数は三千二百八名であり本協議会の支部別に有資格者及び会員数は、平成二十七年三月一日現在で「県北支部は有資格者二百六十四名・会員数四百九十九名」

「水戸支部は有資格者三百四十六名・会員数百二十九名」「中央支部は有資格者五百十二名・会員数二百七十名」「鹿行支部は有資格者百七十三名・会員数八十八名」「県南支部は有資格者八百八十七名・会員数三百六十二名」「県西支部は有資格者三百七名・会員数四百四十名」で有資格者合計は二千四百八十九名(但し、スポーツリーダー及び県外有資格者は除く)で、会員数合計は千四百八十八名、

会員比率四十六・二%になり、一年前よりも九十三名の会員増加になりました。

公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者は、資格取得後に義務研修会を四年間に一回以上の

研修会に受講した実績が無い場合は、資格更新の手続き案内通知が送付されなくなりしますので、本協議会が主催する研修会「全県研修会及び地区研修会」に受講された方々を公益財団法人茨城県体育協会を通じて、公益財団法人日本体育協会に義務研修会に受講した実績を書面で提出して、資格更新の案内通知が円滑になるよう会員皆様をご支援いたしております。

また本協議会は、毎年三月及び九月までに公益財団法人日本体育協会に資格取得及び資格更新された公認スポーツ指導者に会員入会及び会員更新の案内文書が届きましたら、積極的に本協議会の会員入会をされますご協力を賜りたくお願い申し上げます。

今後とも茨城県スポーツ指導者協議会の発展寄与に事業運営等会員皆様の格別なるご理解とご支援を賜りたくご協力を宜しくお願い申し上げます。



会員入会協力への おねがい

会員の皆様、有資格者のお仲間、会員入会をお勧めいただける様、ご協力をお願いいたします。

平成
26年度

全国公認スポーツ 指導者研修会報告



受賞者あいさつ



水戸市
古杉 進

この度、平成二十六年年度公認スポーツ指導者全国研修会において公益財団法人日本体育協会の公認

スポーツ指導者表彰式が行われ全国一八七名の一人として表彰を賜りました。推薦を賜りました茨城県体育協会、茨城県スポーツ指導者協議会、茨城県スポーツ指導者協議会水戸支部の皆様方に心から感謝を申し上げます。

今回の研修会で、特別講演は、デイズニーに学ぶ人材育成法、講師は福島文二郎氏（JSパートナー株式会社代表取締役）、講演は指導者と選手の絆を深めるには、講師は飯島健二郎氏（日本オリンピック委員会ナショナルコーチ「トライアスロン」）。二人の講演の中で福島氏のデイズニーで教育コンサルティングとして活動している体験や経験から指導する時の人材育成法の話が印象に残りましたので一部を記述し報告したいと思います。デイズニーのミッション（目指すべきゴール）の構成要素の①存在理念（何のために会社は存在するのか、指導者は何のために存在するのか）、②将来の姿（どんな組織になりたいか、○年後達成すべき目標は何か）、

③行動理念（具体的な行動のみちしるべ）、の三つの要素がありますが、目指すべきゴールは、すべてのゲストにハピネス（幸福、幸せ）を提供するという事であると、相手に対しての主体的な思いやりとは「自ら相手の気持ちになり、相手の立場になって、ともに考え、ともに行動する」こと、そして次のステップを踏む必要があると、①目配り②気配り③心配り④相手への行動、お客様（選手）が楽しいと感じてくれば、例え間接的でもおもてなしの心がお客様（選手）に通じ信頼の心が生まれ、この信頼が教える人と教わる人にも通じる考えという。

このデイズニーのミッション（目指すべきゴール）を今後、スポーツ指導者として取り入れ、微力ではありますが努力してまいりたいと存じます。今後共、皆様方のご指導ご鞭撻をお願い致します。



鹿嶋市
君和田 治也

平成二十六年年度公認スポーツ指導者全国スポーツ指導者表彰を受賞することが出来ありがとうございます。推薦をして頂きました茨城県体

育協会・県スポーツ指導者協議会及び鹿行支部の各関係者のご尽力に心より御礼申し上げます。
平成二十六年十二月十三日、東京品川TKPガーデンシティ品川にて、全国より参加された基準第一号一八七名の一員として日本体育協会副会長の監物永三様より表彰楯を頂きました。
県スポーツ指導者協議会会長の照沼様も出席され研修会の合間に受賞者一同で記念撮影を撮って頂きました。
全国研修会では心の育み方として「指導者とプレーヤーの絆を深めるためには」を目的にした講演がありました。この講演の内容で参考となったことを紹介したいと思います。
一つは岩崎由純さんの「心を育てるコミュニケーション術」でした。内容的にはペックブトクと言う内容でプレーヤーをやる気にさせる訓話の仕方、短く・分かりやすく・肯定的な言葉を使った・魂を揺さぶる・スピーチについてユーモアを入れ込んだ講演に感激しました。是非、自分でも身に付けたいコミュニケーション術となりました。
二つ目は福島文二郎さんの「デイズニーに学ぶ人材育成法」と言う講演でした。このお話で参考とした内容は、「予想外の小

さな感動をたくさん創る」と言う事でした。スポーツを楽しませる為には、目配りから始まり、気配り、心配り、をしつかりして自分の思った事を相手にしてあげる事が指導者として大事であり、このことよって人から信頼され感謝されるとの話でした。

今回、指導者表彰と全国研修会に参加したことにより、これからの指導活動に新たな風が吹いてきたと思っています。スポーツをやっている人も見ている方も感動があり、面白いと思うような活動を目指して行きたいと思っいます。



日立市

藤田 文子

この度、平成二十六年年度公認スポーツ指導者全国研修会にて公益財団法人日本体育協会より公認スポーツ指導者表彰を頂きました。ご推薦を頂きました、茨城県スポーツ指導者協議会県北支部を始め各関係機関の皆様へ深く感謝申し上げます。

私はソフトボールを通して、県北スポーツ指導者協議会（現茨城県スポーツ指導者協議会県北支部の前身）設立に参画し、発足期から現在に至る二十九年間、支部の

歩みと共に支部会計、幹事や研修委員会等で活動してきました。

私がソフトボールを始めたのは高校の時でした。入学時にはソフトボールクラブが無く新任の先生と仲間と一緒にチームを作り、道具が総て新品でそれぞれが輝いて見え、自信を持ってプレーやルールの大切さと技術指導を頂き、笑顔忘れず楽しいチームでした。高校卒業後、仲間はそれぞれの道を歩み、ソフトボールをする機会を失い、家庭生活を数年送っていました。

偶然にも学生時代の友人に会い日立市には当時ソフトボールチームが無く、ソフトボールの楽しさが忘れられず、友人と二人で学生時代の友に話しかけ、昭和五十四年に家庭婦人ソフトボールチームを作りました。

チーム数の増加を目指し、市主催によるソフトボール教室の開催を依頼、その結果昭和五十五年には十四チームが出来「日立市ママさんソフトボール連盟」が設立されました。のちの名称を「日立市家庭婦人ソフトボール」に改称しました。日立市初の家庭婦人ソフトボール大会を開催しました。年々大会は盛大になり、昭和五十六年にソフトボール指導員資格を取得、さらに平成七年第一種審判員を取得しました。

関東大会や全国大会、その他の種々の大会に審判員として務めたことが出来ました。私にとつて大きな財産であり今日の力になっています。

ソフトボールに限らず、他のスポーツの主催や実施するときにも活かされています。

この力を地域のみなさんと思いを共有し、より多くの言葉に耳を傾け誰からも頼られる指導員でありたいと願っています。

今後とも、皆様方のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。ありがとうございました。



日立市

江川 恵子

この度、平成二十六年年度公益財団法人日本体育協会より名誉ある公認スポーツ指導者表彰を、生涯の記念となる立派な楯と共に受賞賜り感謝申し上げます。同時に一緒に受賞された方々の経歴を拝読しまして、改めて賞の重さを深く感じております。これは偏に茨城県スポーツ指導者協議会、茨城県体育協会、スポーツ指導者県北支部の皆様のご指導、ご尽力により受賞に至ったものと、深い感謝の念と共に厚くお礼申し上げます。

同日TKPガーデンシティ品川ボールルーム広間にて実施された研修会で、三人の先生方から特別講演があり大変有意義な内容でありました。

初めの講演は、福島文二郎氏（JSPパートナー株式会社）の「ディズニーに学ぶ人材育成法」の内容でした。ディズニーに来られたお客様を満足させるために、「自身の仕事の役割を果たすこと」であり、その為に人としてのマナーを守り、お客様に感動を与えられるよう、お客様に直接接している人も裏方の人も、全員一体となって働くようにしているというお話でした。私達指導者も、「自分が指導者としてクラブの目標と願いを持ち、指導者としての存在を示すこと」であり、具体的にどんな行動をするべきかを考え、クラブが目標に向かって一つにまとまるよう努力しなければならぬと思っました。

次の講演は、飯島健二郎氏（JOCトライアスロン、ナショナルコーチ）の「指導者と選手の絆を深めるには」の内容でした。日本トライアスロンのオリンピックの監督、コーチとして指揮をとりメダル獲得に導いた内容でした。石倉恵介氏のインタビュー形式で進められました。指導者と選手の絆を深めるには、「お互いに正直で

あること」「誠意と信頼感を持つこと」「指導者からも、選手からもお互いに本当のことを言いあえること」等の内容で参考になりました。

最後の講演は、岩崎由純氏（日本ペップトーク普及協会代表理事）が、「心を育てるコミュニケーション術」という題目で話されました。

スポーツ選手を励ますのに、指導者やリーダーが、試合前に使う短い激励の言葉のことを「ペップトーク」と説明されました。ペップトークは、マイナス思考でなく、必ずプラス思考の言葉が大切であるとアドバイスされました。

通常の指導の上でもやる気を起こすためにかける言葉は、ネガティブではなくポジティブな言葉を選びながら指導したいと思いました。例えば、「何でできないの」ではなく「何ができるの」。「どうして分からないの」と言わず「どこまで分かったかな」。「ミスをするな」ではなく「今ある力を全部出しなさい」。「もう歳だし…」と言う人には「今からよ、これからよ」とか、「ムリムリ」が口ぐせの人には「きつとできるよになるからね」という風に、ネガティブ（否定的、マイナス思考）でなく、ポジティブ（肯定的、プラス思考）に表現してあげることが、選手に

やる気を起こさせ、お互いの良いコミュニケーションがとれるようになると思います。

三人の先生の有意義な講演を拝聴し、これからの指導法に役立てて行きたいと思えます。

昨年は、五月に県より功労賞をいただき、また十二月に全国表彰をいただき身に余る光栄な年でありました。これからも生涯スポーツとして、同じ世代の人達と楽しく、無理をせず、健康でいられるよう指導して行きたいと思っております。これからも皆様方のご指導をよろしくお願い致します。

支部だより

鹿行支部

支部長 島田昌和

茨城県では二〇一九年茨城国体の成功に向け県民のスポーツ活動の推進計画を策定している。4割程度にとどまっている成人の「週一回以上のスポーツの実施率」の目標を6割程度とし、子どももの体育時間以外の運動時間の増加を促し、国体成功に向けスポーツに関心を持つ県民の増加を狙っている。

また少年団や部活動などで積極的に運動する子どもとそうでない

子どもとの二極化傾向にある現状から小学校に体育免許を持つ専科教員の配置推進、幼児期の運動の充実を図るための教員の研修体制の整備等も進めようとしている。

長寿県日本一に長野県がなった。もともと寒い県で塩分をいっぱいとっていた。そこで始めたのが減塩運動、次に運動、第三に検診、この結果日本一になった。

同じ寒くリンゴの県である青森県は日本一の短命県である。そこで同じリンゴの県として長野には負けられないと始めたのが同じようなことで第一にダシで減塩、第二が狭い所でできる体操、第三に健康教育の推進だとのこと。ダシで減塩は塩分を使わず他の食材でおいしい料理をつくる調理法である。塩分は動脈硬化を起し脳梗塞や心筋梗塞の原因となることをご承知の通りである。狭い所でできる体操は冬の寒い間外で運動する習慣がない。そこで室内でもできる体操を推進している。運動も単純なものでなく飽きないやり方を工夫して効果的な運動を奨励したとのこと。茨城県も低位の方であることから県民一人一人に前記の必要性をどう認識してもらうかが大事で地域の指導者の養成も重要である。我々指導者は今後もスポーツの楽しさ、良さを大いにPR活動することによって健康への

知識と意識が根づき、優秀な選手も育ち、健康で明るい活力のある社会づくりに貢献するため会員一同活動している。

支部研修会では、三月八日鹿嶋市まちづくり市民センターにて、ピラティスを実施する予定で、ピラティスは身体と精神を結合して同時にコントロールすることにより効果的に精神と肉体を強化することができ革新的な方法とされている。公認スポーツ指導員はもとよりスポーツ推進委員、スポーツ少年団指導者、スポーツ関係者、関心のある方は自由に参加できますので友人を誘い合って参加していただきたいと思っています。

県南支部

支部長 櫻井孝之

県南地区研修会も、会員の皆様のご支援により、一二二名の参加者を戴き無事修了できました。感謝申し上げます。アンケートの結果の一部を報告いたします。

・問一 日体協公認スポーツ指導者制度改定で「指導者の責務」を規定「公認スポーツ指導者処分基準」が明確になりました。知っていますか？

- ① 全く知らない……………34・5%
- ② 少しは知っている……………50%
- ③ 良く理解している……………15・5%

・問二 日体協「倫理規定」について

① 全く知らない………28・5%

② 少しは知っている……56%

③ 良く理解している……15・5%

・問三 スポーツ指導現場に於ける暴力行為、反倫理的行為を根絶する取り組みや指導法の再点検等のご意見を書いて下さい。

*指導者のやり方が行き過ぎと感
じられ、それが暴力と誤解され
る。

*勝利至上主義を止め、スポーツ
の楽しさを伝える努力を

*多様な価値観を有した指導者で
構成し、相互チェック出来る体
制で、個性を生かす指導を

*指導者は基本的に選手の為に
あるので、指導者の自己満足では
いけない。選手を尊重し、寄り
添い相互の理解を深め、選手の
目標を達成する為にサポートす
る。

*暴力・暴言をしないよう常に意
識し、他の指導者にも同様に声
掛けをしています。

*暴力行為や反倫理的行為には、
資格の取り消しも必要と思いま
す。

その他多数の意見を有難うござ
いました。コーチング法に基づい
た指導が今後主流となると思う皆
様はどのようにお考えですか？

県西支部

事務局長

近藤康雄

平成26年度の支部活動も終わりに近づいています。

全県研修会が昨年八月三日、水戸市で開催され、県西支部からは全参加者(185名)の15%にあたる26名の参加を頂き終了。遠路ありがとうございました。

平成26年度県西支部会員(平成26年7月末現在)129名で前年度より20名近く減りました。県西支部活動として今年度の支部総会当日に「普通救命講習会」を実施し、以前の総会出席人数の4倍以上の参加を頂きました。平成27年度も計画したいと考えております。独自の研修会開催を企画中です。内容としては「新スポーツへの取り組み」であります。決まり次第、会員の皆様に連絡致しますので楽しみにして頂きたいと思えます。

県西地区研修会を筑西市・生涯学習センターで平成27年11月15日(日)を予定しております。一昨年も約80名の参加があり、支部運営委員のご協力により無事、終了致しました。今年度も御協力をお願い致します。又、県西支部総会を開催(昨年度は筑西市)検討中ですので多数の出席を希望します。総会の席上、今後の活動について協

議を行いたいと思えますので宜しくお願い致します。

この会報をご覧になり、ご意見、ご要望がありましたら

〒306-0052

古河市大山1543-13

県西支部事務局 近藤康雄

TEL・FAX

0280-4811911

まで連絡をお願い致します。

水戸支部

支部長

吉田 広光

水戸支部が主管で開催されました茨城県スポーツ指導者研修会「全県」が今年度は参加者の車が自由に駐車のできる会場を選びました。結果的には百八十五名の多くの指導者の皆様を迎える事ができ、会場は「茨城県農村研修館」水戸市国井町、八月三日盛夏の中開催できましたこと支部役員外の方々にご協力を頂き無事午後二時に終了致しました事を紙面をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございます。

始めに大塚製菓の情報提供を賜り、講演Iでは総合病院水戸協同病院院長 平野篤様による「中高年者のための運動プログラムについて」。講演IIは虎ノ門協同法律事務所弁護士 大橋卓生様による「スポーツ指導方法について」。内容にては受講の皆様がそれぞれの義務研修に該当された事

と思います。水戸支部事業の一つ、二十七年中に上級救命資格取得講習会を開催したいと考えております。丁度三年前に救命の講習会を一度多くの参加を頂いております。予定日時会場が決まりましたら御案内申し上げます。本年度は水戸支部にとつても明るい話題が入ってきます。その一つ、すでに記事にも出ましたが水戸市の「水商高」で強打の捕手として活躍し、八四年ドラフト一位で西武入団して途中巨人へ移籍したが指導者としての氣質を評価され、楽天の新監督としての活躍を期待されている「大久保」新監督。「選手」は指導者の人間性を三日で見抜く事が出来ませんが指導者が選手を理解するまでには三年かかると指導者の難しさを強調しています。どんなスポーツでも同じ事がいえるようです。本人は生まれ育った茨城県民としてすこく誇りを持っていてと愛着を示しておられ、これからの指導者としての明るい情報と活躍を期待したいものです。一つ目、昨年十月に生涯スポーツ優良団体に對する文部科学大臣表彰を受けた水戸市の「総合型地域スポーツクラブ」高橋五志生会長初め多くの役員の方々がこのほど水戸市役所を訪れ水戸高橋市長に受賞を報告されました。本当におめでとうございます。立案計画とクラブ

は二〇〇八年七月に発足。酒門町の酒門コミュニティセンターを拠点として活動され地域スポーツ地域住民で始めた。これらの活動が国からも認められ評価されたものと感じております。発足時には私も会場へ出席させて頂き本当に光栄と思っております。皆々様のこれからの活躍を期待しております。

現在一九〇名の会員があり「体操」「卓球」「グラウンドゴルフ」多種のスポーツ教室などを実施、健康づくりに活動されておられます。

中央支部
事務局
野々村 律子

平成二十七年年度、茨城県スポーツ指導者協議会中央支部の総会を、平成二十七年四月四日（土）ひたちなか市松戸体育館研修室Aで開催して新年度をはじめたいと思います。

今年度の全県研修会が、平成二十七年八月二日（日）に水戸市茨城県農村研修館で開催されますが、中央支部が主管担当になっております。中央支部会員の皆様で更新時期になっている方々は、この日に向けて日程を組んで頂ければ良いと思います。

支部継続事業の上級救命の更新講習会をひたちなか市西消防署に於いて、六月上旬に予定しております。指導するにあたり、有事の

折り臆する事なく関われる様に出来ればと思っておりますので。

年度始めの通知時、上級救命資格取得希望者を募り、その人数がまとまったら七月下旬頃に講習会を計画し、もし少人数の場合は、ひたちなか市西消防署開催事業に参加させて頂ける様にお願ひして是非共この機会に資格を取得して貰いたいと、事務局としては願っております。

今私達各々が指導者として継続活動に励み、自分達の競技の若い人達に後を託せる様に、共に励み合いながら、新しい年を迎えるにあたり、頑張りたいと思います。

県北支部
支部長
梅村 恒雄

前回、今年度の総会についてご報告しましたので、その後の事業計画の進捗状況についてご報告します。

・平成二十六年事業実績
四月 六日 さくらロード助勢

七月 七日 定例会

県常任理事会報告・友の会報告・さくらロード報告・支部総会对策

二十六日 実技研修と支部総会
五月十二日 定例会

県理事会報告・県総会報告・県表彰者報

六月 二日 告・支部会報告

六月 二日 定例会・友の会報告・地区研修会検討

七月 七日 定例会・友の会報告・地区研修会検討・役員研修会検討

八月 四日 定例会・地区研修会協力要請・友の会報告・支部会報原稿校正

九月 一日 定例会・支部会報発行・地区研修会検討

十月 六日 全県研修内容報告

十一月 三日 定例会・地区研修会担当依頼・支部役員研修会検討・理事会報告

十二月 一日 常陸太田市行事報告

十二月 一日 常陸太田市行事報告

十二月 一日 常陸太田市行事報告

十二月 一日 常陸太田市行事報告

十二月 一日 常陸太田市行事報告

十二月 一日 常陸太田市行事報告

十二月 一日 常陸太田市行事報告

十二月 一日 常陸太田市行事報告

十二月 一日 常陸太田市行事報告

十二月 一日 常陸太田市行事報告

十二月 一日 常陸太田市行事報告

十二月 二日 役員会新年会
三月 二日 定例会・地区研修会の反省・常陸太田市行事助勢

等々を予定しています。

今後は、平成二十六年年度の反省と二十七年年度の事業計画について議論し、会員の皆様に喜ばれ、参加して頂ける活動を企画しますので、ぜひ各種研修会にご参加して頂きますようお願いいたします。

特に、県北地区研修会は、現在県体育協会・県スポーツ指導者協議会と運営委員の協力を頂きながら着々と準備を進めています。会員の皆様の多くの参加を期待し、参加してよかつたといわれるように役員一同考えております。さらなるご支援ご協力を宜しくお願ひいたします。



活動を表彰（高橋水戸市長をかこんで）

みんなの広場



生活の中にスポーツを



ひたちなか市
横須賀良子

指導員の資格を取得して何十年が経ったのでしょうか。今まで振り返って考えた事ありませんでしたのでこの機会を得まして考えてみようと思います。生活の中に常にスポーツ「卓球」が存在していません。私は転勤族でしたので否が応でも何度も引越をしました。その度に先ず近くの体育館に足を運び状況を把握し自分が出来

そうだと思つたら飛び込むといった毎回のスタンスでした。幸いに子供が小さい時はPTAのお母様達と一緒に楽しみました。少し経験のあつた私は自然に人を教える立場になり皆さんが少しでも楽しさの中から上達が出来ると喜び、その姿をみるたびに充実した幸せな日々を過ごす事が出来ました。そして東京に居る頃に粒高と言う新ラバーが出廻ってなんとも不思議なラバーに困惑した事を鮮明に覚えています。子供が小さいうち少しの間卓球が出来ない時期に新宿体育館で富士短大の先生(二川先生)と生徒さん達に教えて頂いて大感激をしてから再び卓球に目覚め大会に参加して自信を得て、またクラブから声をかけて頂き大喜びでクラブ員になり素敵な先輩方がたに面倒見て頂き幸せでした。そんな日々は長くは続かないのが転勤族の悲劇です。昭和六十年に当時勝田市に家を建ててから今日まで少年団の指導を頼まれ自分の練習と試合と夢中で過ごしてきました。三十年近く子供達と楽しみながら技術の向上とマナー等を教え、大会の時は一ヶ月前から準備を始め無事終えた時は少しの疲れと充実感を味わい幸せを感じる一瞬でした。長年やらせて頂いていきますので若い人にバトンタッチをする時期と考えています。ここ

十年近く並行して大人の方(老若男女)を教えています。子供達とは大きく違った雰囲気の中で、先ずは理屈から入り次に技術と、そしてその人となりを知る事が大事かしらと。スポーツはコミュニケーションを作ると言いますが真にその現場で、とても素晴らしいところと痛切に感じております。今私がおここに居られる事は今迄にお世話になった先輩の方々、一緒に練習して下さった友達、皆々様に支えられ「人はひとりでは幸せにならない」の如く皆様の力を借りて自分がある事を忘れてはいけないと思います。日々の経過に戸惑いながら自分の年齢に驚きますが、これからも県の指導者の役員としてささやかに自分の出来る範囲でお手伝いが出来ればと思っております。

「桜川市さくらマラソン大会」によせて



桜川市
田辺 勝行

「位置について、よいスタート。」と親子仲良く二人一組で走れる1.3km、地域の小学生や中学生が懸命に競う1.6kmと3km。市内の

みならず市外からまた他県より走ることの大好きな方々が集う5kmと10km。多岐にわたるコース設定、適度に起伏があり、早春の桜川路、田園風景が広がる自然の中をさまざまな種目に分かれて走るマラソン。今年も、また、三月十五日に「桜川市さくらマラソン大会」が開催されます。この大会は本年度で十回目を迎えることになりました。昨年度の参加者は二千四百人を超えました。

本大会の前身は四十数年前にもさかのぼります。当時は旧岩瀬町の西中学校周辺を小中学生が走り、一般の方の参加者は数名という様子でした。スタッフは体育指導委員(現スポーツ推進委員)や陸上部が主でした。そして会場は平成十年に岩瀬総合運動公園が完成してから実施場所を運動公園に移しました。

その後、市町村合併により桜川市が誕生したことにより、平成十七年に第一回桜川市さくらマラソン大会として開催されました。その後、第七回までは無料で実施してまいりましたが、第八回より有料化をはかりました。それまでは、主に市民の健康増進を図ることを目的としていました。大会を重ねるごとに市外からの参加者が増えたこともあり、市外からの参加者に、市の物産観光をPRする

場としての目的もたせようではないかということもなつたわけです。参加者に応分の費用を負担してもらい、マラソンを楽しんでもらおうと同時に、あわせて、数ある大会の中でも桜川市ならではの特色を出そうと、この大会より実行委員会が設置されました。メンバーとしては、スポーツ推進委員を主として、体育協会（会長、副会長）、スポーツ少年団（本部長、副本部長）の方々です。市内の各小学校にポスターづくりを依頼して意識高揚を図り、大会のプログラムの表紙に使用させてもらうことにしました。また、企業や個人の方々には出店や協賛を依頼するなど、環境の充実を図りました。当日のスタッフに關しましては、体育協会やスポーツ少年団に所属する方々をお願いしたり、ボランティアを募つたりすることとしました。こうして地域の皆様と一丸になつた本大会を実施できていると思つております。

さらに開会式や表彰式の待ち方等、毎年構成に關して参加者や保護者などさまざまの方からの声を生かし、運営組織面の工夫改善を心がけています。昨年度の参加者の方々からは「さわさわした雰囲気がなく、走りやすいコースで楽しい大会だった。」「ほのぼのとした感じがして走る前の緊張感が和らいだ。」「参加賞のゆずジャムセットがよかつた。」との感想をいただきました。また、「大会後は水ではなくスポーツドリンクの方がありがたい」とのご意見もいただきました。今後このような参加者からの声も参考にして改善を行い、一人でも多くの人が参加していただけるような大会運営を目指していきたいと考えております。

健康志向の高まりや気軽にできるスポーツとしてランニングが盛んになっている現在、その受け皿として日本国内各地で開催されているマラソン大会。その中で、本大会は地元の方々も楽しみながら、参加者の皆様に対して心暖まるおもてなしができる大会として益々発展していつてくれることを願つてやみません。微力ながらその発展に貢献できたらと思つております。

雑感

龍ヶ崎市 佐藤 弘

私は今七十五才です。スポーツ活動としては指導者として特定のクラブ等には關わつてはいませんが、中学校の部活のサポート（陸上競技）を月三〜四回位と競技会等のお手伝いやランニング教室での指導くらいです。幅広い年齢層

の方々とおつき合いさせて頂き元気を貰っています。

この様な活動を通していろいろな感じることがあります。また最近のスポーツ界全体の動きからも考えさせられる事があります。

東京オリンピック決定後の各競技団体の動きで気にかかる事があります。自国で行われる大会に向け強化を計るのは当然だと思われませんが、その方法に若干問題があるように思います。それはジュニア層の育成に關する事です。二〇二〇年まで五年と期間が限られていたため速成栽培的な強化になりがちだと言うことです。最近の情報でこれ等の傾向を目にすることが多くなつていきます。

競技種目により第一線で活躍する年齢には多少の差があり、強化方法も異なると思いますが、基本的にジュニア層の強化は精神面・身体面を考慮しながら年齢を追つて進めることが大切だと思います。

精神面・身体面の基礎が未熟なまま、強度の高いトレーニング負荷をかける事は避けるべきではないでしょうか。

我々指導者は活動の場に於いてこれ等の事に直面することもあろうかと思われます。状況判断を適切に行い対応して行かなければと考えてます。

それからもう一点。最近の中学・高校生のスポーツ選手はそれぞれの指導者のお蔭で、トレーニングに關する方法・知識等がかなりのものを身につけている様に見受けられます。反面スポーツの生理的な面では良く理解していない様に思います。特に食事の事・ウォーミングアップとクーリングダウンの事・身体の事・睡眠の事等については、基本を身につける必要があると感じます。これ等の事とトレーニングが噛み合つて成果に結びつくのではないのでしょうか。



県南地区研修会

ソフトボール競技に携わって



水戸市
加藤木すえ子

私が、ソフトボールを始めたのは、中学生の時です。

その年、先の茨城国体が開催されました。部活動として「楽しければいいや。」ぐらいの気持ちで練習に取り組んでいた私が先生につれられてソフトボール会場で見えたものは、大観衆の中、整備されたグラウンドで、堂々と自信に満ちた全力プレー。力強く巧みなプレーに、歓声や拍手が沸き起る。感動し「私も、こんな会場でプレーがしたい!」と言ったのが、今日まで四十年の間ソフトボール競技に携わってきた始まりです。

高校生の時は、三年生のいない一、二年生だけのチームを全国大会出場まで導いて下さった名監督(厳しい先生でしたが、心から尊敬し感謝しています。)の各選手の個性や長所を伸ばし、やる気を出させ育てる指導と、試合で力を出しきらせる采配で県代表として多くの大会に出場する事が出来ました。どの大会も整備されたグラウンドで力一杯プレーする事がで

き「大会運営関係者の方々のお陰」と感謝していました。その中でもインターハイ出場の思い出は深く心に刻まれています。開催地の方々の暖かい歓迎(夜には花火大会もありました)整備されたグラウンドで緊張しながらもチーム一丸となり守って打って全力を出しきった試合です。ソフトボールへの情熱が益々高まりました。

その後、実業団チームで五年程プレーしましたが、高いレベルの戦いの中で、社会人としての厳しさや責任の重さを沢山学びました。

こんな私も母になり、子供会のソフトボールで監督をする事になり、子供達にきちんとした指導がしたいと思いつつ二〇〇三年に指導員資格を取得しました。同じ年に審判員資格も取得しました。指導員としての勉強をして子供達の指導が出来た事は「よかったな。」と思います。審判員としても毎年多くの試合で審判をさせて頂いています。昨年は、関東小学生大会、日本女子一部リーグ茨城大会、関東高校生大会、全国高校総体に審判員として参加させて頂き、多くの経験をすることができました。

小学生大会では、子供達の体調に注意をはらい、ケガのないように。日本女子リーグの試合では、観客席からも分かる様に、大きなコールとゼスチュアで対応しました。

関東高校女子大会では、雨天で会場整備をしながらの審判で、集中力を切らさぬ様努力しました。全国高校総体は派遣審判員として神奈川県へ単独車で向かいました。高校生の時出場したインターハイに今度は審判員で参加する。全国からの代表四十八チームの選手達が、それぞれの想いと技で競う試合です。審判員としてのやさしさや安全確認を心がけ、冷静に正しい判定をする事でチームにはプレーを楽しんでもらいたいと考えて努めました。

二〇一九年に開催される茨城国体では審判員として参加したいと考えていますが、その時活躍する選手の育成がとても大切です。そして本大会では、大勢の子供達に感動を与え「私も、こんな会場でプレーがしたい!」と言ってもらいたいですね。

「ソフトボールは私の人生」これからもソフトボールに携わって行きたいと思っています。



感謝



日立市
鈴木三枝子

バドミントンを始めたのは学生の時でした。運動する事が苦手な私は始めた頃シャツも当たらず、練習も厳しく、もうやめたいと思っただことが何度もありました。合宿の時、両親が差し入れに来てくれ、親の顔を見たら涙が止まらず、先生に怒られました。会わずに帰ってもらった事もあったと、懐かしく思います。当時の友人達と出話をしては、「辛かったね、あの時の経験が社会に出てから役にたっている」と。当時は全く気が付かなかつた事でしたが、スポーツを通して勉強したことが沢山あったと思っています。

子供が少し成長し余裕が出来て、健康の意味でまたバドミントンを始めました。クラブ指導者に、ただ試合をして勝てばいい、自分が楽しめればいいのではない。ルールを大切にすること、これまでの経験なども教えて頂けました。聞いていただけでは分からない事もありました。「勉強しておいで」と、茨城県レディースバドミントン連盟の理事を受けさせて頂きま

した。試合に出ているだけでは分
 からなかつた運営側の苦勞、大会
 を開くまでの過程、ルールの大切
 さ、チームとしての在り方等、試
 合や練習をする事だけではな
 いと、勉強させられる事が沢山あり
 ました。また、クラブ指導者から
 「やっつてごらんよ、間違えたら修
 正すればいい」と背中を押して頂
 き、日本体育協会公認バドミント
 ンコーチの資格、県協会より声か
 けを頂きました。日本バドミント
 ン協会公認審判員資格審査認定委
 員の資格も受験し、取得させて頂
 きました。公認バドミントン指導
 員養成専門科目の講師の経験や公
 認審判員資格検定会にも参加させ
 て頂き、このような貴重な経験の
 機会を頂けて感謝しています。現
 在は以前から魅力を感じていた、
 総合型地域スポーツクラブで新し
 くバドミントン種目をさせて頂け
 る機会を頂きました。また、新規
 で総合型地域スポーツクラブを設
 立する為に昨年度から皆様と会議
 を重ねています。

育ててくれた指導者の方達、家
 族、仲間、みんなに支えて頂いた
 おかげと本当に感謝しています。
 これからも勉強する事が沢山ある
 と思いますが、教えて頂いた事を
 生かせるように、やさしさ、初心
 を忘れずに一歩ずつ歩んでいくた
 らと思っています。また、茨城県

スポーツ指導者協議会県北地区役
 員としていつもお世話になってお
 ります。今後ともご指導の程、宜
 しくお願い致します。

指導者のスキルアップ

鹿嶋市 森作 秀裕

公認スポーツ指導者（バレー
 ボール）の資格を得てから、十数
 年が過ぎようとしています。

当初は、試合の為、ベンチスタッ
 フの資格としての必要に迫られて
 の資格取得でありました。資格取
 得の前の指導の中心は、競技力向
 上。特に技術力のアップに注いで
 いました。その中で、スポーツと
 栄養、メンタルトレーニングの重
 要性などを再認識させられた取得
 でした。成年男子の指導を中心と
 しました。

そして、高校生の指導へと移り、
 その後、家庭婦人となりました。
 高校生を指導している時、沢山
 の指導者と知り合い、自分の指導
 力の向上にプラスになり、勉強さ
 せられました。

指導の基本は変わりませんが、
 指導の内容等については、常に指
 導者が色々な方法を勉強して、指
 導者自身のスキルアップを図る事
 が重要となっています。

その年代、個人によつての目標
 を達成できる様に共に成長出来る
 様に頑張りたいと思います。



県北地区研修会

ホームページ開設



www.ibaraki-sports.or.jp/

編集後記

第七十号会報発行に
 当たり皆様に原稿を賜
 り心から感謝申し上げ
 ます。
 ご愛読いただける会報
 となるよう努力してま
 いりますので、皆様の忌
 憚のないご意見をお寄
 せ頂きたいと思ひます。

次回の会報第七十一号発行は
 平成二十七年七月(予定)

広報委員会

広報委員長

岡野 秀 一

広報副委員長

柏葉 光子(中央支部)

広報委員

佐藤 マツ(県北支部)

舛井 幸子(水戸支部)

君和田治也(鹿行支部)

櫻井 孝之(県南支部)

又村 和子(県西支部)